平成２７年度　国立赤城青少年交流の家　教育事業

赤城やまなみチャレンジキャンプ
～目指せ！赤城全山制覇！！～
報　　告　　書

国立赤城青少年交流の家では、８月１５日（土）～２２日（土）の７泊８日の日程で、教育事業「赤城やまなみチャレンジキャンプ～目指せ！赤城全山制覇！！～」を開催しました。

この事業は、豊かで便利な生活の普及により生活体験や自然体験が不足している中、仲間と一緒にテント泊をしながら赤城の山々を巡り、困難に立ち向かう心や仲間を思い協力する心、自然に対する畏敬の念や周囲の人への感謝の気持ちを育むことをねらいとして開催されました。具体的には、赤城山を構成する主要な七山（黒檜山・駒ヶ岳・鈴ヶ岳・地蔵岳・長七郎山・荒山・鍋割山）を踏破することを目標とし、７泊８日で４か所のキャンプ場を移動しながら行われました。参加対象は小学４年生から中学３年生までで、群馬県を中心に関東近県から２０名（男１３名・女７名：小学生１８名・中学生２名）の参加がありました。

【事前説明会及び交流会】

８月１日(土)をキャンプスタートの日として、参加者と保護者全員に集まっていただきました。初めに、参加者・スタッフ・ボランティアとの顔合わせを行い、事業の趣旨説明を行った後、保護者への説明会と並行して参加者とスタッフ、ボランティアによる交流会（レクリエーション）を行いました。キャンプのスタッフや仲間との交流を行うことにより、当日を迎える緊張を和らげることをねらいとして実施しました。

【１日目】テーマ「冒険への準備をととのえよう」：ざわざわ森泊

初日のキャンプ地となる「ざわざわ森」にて、キャンプがスタートしました。事前の交流会の効果もあり、あまり緊張する様子もなく仲間づくりのゲームや班での活動をしていくことができました。この日は、キャンプの準備として、テントを立ててみたり、木製の名札づくりをしたりしました。また、行動作戦会議として班装備や個人装備の確認、個人や班の目標決めなどをしました。

夜には、スタッフが手包みした「手作り餃子」に舌鼓を打った後、みんなで近くの日帰り温泉に出かけました。スタッフも含めみんなと一緒にお風呂に入ることでお互いの距離が一段と縮まりました。

【２日目】テーマ「歩くことに慣れよう　～赤城の秘境を訪ねるコース～」
：おおさる山乃家泊

キャンプ２日目、いよいよ山歩きスタートの日です。落差３０ｍの赤城の大瀑布「不動大滝」を経て、２日目の宿泊地である「おおさる山乃家」を目指しました。

登山の初めに赤城神社に寄って赤城全山制覇の成功を祈願しました。車道から登山道に入ると、なれない足場を慎重に確認しながらも、声を掛け合って楽しく歩くことができました。宿泊地である「おおさる山乃家」に着いたあとは、班ごとにテントを立てたり、近くの沢で水遊びをしたりと、のんびりとした時間を過ごしました。

【３日目】テーマ「あせらずゆっくり一歩ずつ　～赤城の峰を行く、
一気に山頂へコース～」：前橋市赤城少年自然の家泊

キャンプ３日目、この日は赤城山の麓から一気に峰を登り、山頂へと向かうコースです。長い登りときつい斜面に例年の参加者は「この日の行程が一番つらい」というほどです。しかも今年は朝から雨が降っていました。体が冷えすぎないように、休憩も短くこまめにとるようにしながら、６時間ほど歩き続けました。厳しい道のりでしたが、全員無事に歩き通すことができました。前橋市赤城少年自然の家に到着後、行動作戦会議などは屋内で活動し、そのまま本館に宿泊しました。

【４日目】テーマ「自然のすばらしさを満喫しよう！」：前橋市赤城少年自然の家泊

昨年度も好評だった「日の出登山」を今年も実施しました。まだあたりは真っ暗な午前３時に行動を開始。前日の雨もすっかりと上がり、星空を見上げながらのスタートとなりました。順調なペースで登り切り、５時には全員が山頂に到着し、日の出を満喫しました。

山を下りてきた後は大沼でカッターボートに乗りました。全員が同じ船に乗り、かけ声を掛け合いながら、心を１つにしてオールをこぎました。初めは戸惑う様子をみせていましたが、１時間もするとかなり上手に漕げるようになっていました。

午後は班ごとにカレー作りに挑戦しました。これまでの食事で飲んだ牛乳パックを焚きつけとして利用することで、環境への配慮を学びました。また、他の班のカレーを食べ比べることで、野菜の切り方や火加減で味が変わることを実感しました。

【５日目】テーマ「チームで歩こう山から山へ～鈴ヶ岳から出張峠、御神水コース～」
：前橋市赤城少年自然の家泊

キャンプも折り返し地点を過ぎた５日目､この日からは本格的な班行動のスタートです。今どこを歩いているかを地図で確認したり、休憩をどこでするか決めたりと、自分たちの行動をメンバーみんなで相談しながら決定していきます。

天候にも恵まれ、眺めの良い稜線から大沼を見下ろす光景に感動しました。また、鎖のかかる岩場では上級生が年下の子を気遣う様子も見られ、メンバー同士の絆はより深いものになっていきました。昼食後は２時間ほどかかる長い登りがまっていましたが、歌を歌ったり、ゲームをしたりしながら、楽しく登り切ることができました。

この日はさらに「御神水」を汲むために鳥居峠へ行きました。３００段以上ある階段を水を抱えて登り切った後は、みんな達成感に満ちた顔をしていました。

【６日目】テーマ「チームで挑戦だ～赤城山最高峰と最高の眺めを手に入れるコース～」
：前橋市赤城少年自然の家泊

キャンプ６日目、この日はいよいよ日本百名山にもその名を連ね、赤城山最高峰でもある「黒檜山」に挑戦です。前日の班行動をミーティングで確認し、並び順や歩くペースなどを確認した結果、どの班もよい雰囲気で歩くことができました。途中で霧雨となり、カッパを着ての行動となりましたが、弱音をはいたり不満をもらしたりすることなく、元気いっぱい歩く姿はとてもたくましく感じられました。

午後はキャンプ場でお世話になった施設や道具をきれいにして過ごしました。周辺はすみずみまで清掃し、食器として使用していた鍋も丁寧に洗いました。夜の行動作戦会議では山歩き最終日を班のメンバーとどのように過ごすか、自分たちの班はどんな雰囲気でゴールしたいのかなどを真剣に話し合いました。また、この頃になると班を越えた交流も生まれ、自由時間には男女ともに和気あいあいとした雰囲気で過ごす様子が多く見られるようにもなりました。

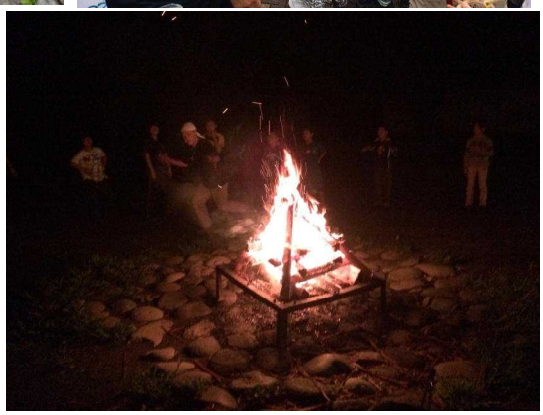
【７日目】テーマ「全員でゴールを目指そう～一路ふもとへコース～」

：国立赤城青少年交流の家泊

キャンプ終盤の７日目、この日の「荒山」と「鍋割山」でついに全山制覇となります。前日は１名が体調不良を訴えて１日休養していましたが、この日は全員で歩くことができました。朝から曇りがちの天候で、残念ながら山頂からの眺めを楽しむことはできませんでした。それでも７つめの頂上である「鍋割山」でお弁当を食べる表情には達成感があふれていました。そこからの道のりは急な下り坂や登山道にハチがいたことにより、歩くペースはゆっくりでした。それでも励まし合いながら確実に歩き通し、全員無事にゴールすることができました。ゴールとなった交流の家では、スタッフが手作りした横断幕が出迎えてくれました。ゴールの瞬間は抱き合って涙を流す人もいるほど感動的なものでした。

入浴と食事をすませた後、キャンプファイヤーを実施しました。みんなでレクリエーションをしたり、ジンギスカンを踊ったりと盛り上がった場面もあれば、行動を共にしたスタッフからキャンプを締めくくるあいさつをするような、しんみりする場面もありました。

また、班ごとに最後のミーティングも行いました。これまでは「班として、明日はどう行動するか」を考えていましたが、この日は「各自がこれからどう生きていくか」を考えました。キャンプで学んだことを思い出し、１人１人が自分の成長を実感するとともに、決意を新たにした時間となりました。



【８日目】テーマ「８日間の冒険を締めくくり、新たな旅立ちへ」

この日はいよいよ最終日､長いようでも終わってしまうとあっという間の８日間でした。お昼にバーベキューパーティで最後の食事を楽しみました。その後は全員講堂に集合し、保護者の方も一緒に「出発式」を行いました。スライドショーを見てキャンプをふり返り、班ごとに自分たちの決意を発表しました。スタッフからのあいさつでは、感極まって言葉を詰まらせる大学生の姿に、その場にいた多くの人が感動しました。

まとめ

今回のキャンプでは「挑戦・協力・感謝」というテーマを初日に掲げました。そして、この言葉にそれぞれが自分なりの意味づけをしてほしいと伝えました。毎日の山歩きやテントでの生活、毎日の早起きなど、参加したすべての人が期間中に多くの「挑戦」をしました。そして、それを互いに支え合う仲間の存在に気づき、そこから「協力」を学ぶとともに、自然と「感謝」の気持ちが芽生えていきました。悪天候に見舞われ、予定が変更になったり、自分の背丈以上もある大きなオールに苦労させられたりもしました。しかし、そうした経験を１つ１つクリアしていくにつれ、たくましく成長していったように感じます。そしてそれを裏付けるように、子どもたちの表情は日に日に自信に満ちたものになっていきました。

キャンプを通して得た自信やたくましさを支えに､これからもいろいろなことに挑戦し、成長し続けてくれることを願っています。

担当：企画指導専門職　木暮　敦